

# 農薬の飛散を防止し、安心・安全な作物生産に努めましょう！

## ○ 残留農薬基準のポジティブリスト制度

平成18年5月29日に食品衛生法の残留農薬基準にポジティブリスト制度が施行され、食品に残留する全ての農薬等に残留基準を設定し、この基準を超えた食品は原則として流通が禁じられています。

農薬を使用する場合は、「農薬の使用基準」に基づいた適正使用はもちろんのこと、「基本的な農薬散布」の励行と「農薬の飛散(ドリフト)による周辺農作物への影響防止」に努めましょう。

### 1. 基本的な農薬散布

- (1) 農薬のラベル（農薬使用基準）に基づいた使用を行う。
- (2) 風速が概ね3m/秒を超える風が強い日は散布しない。
- (3) 風向きや散布する作物の位置を確認し、散布する方向や散布位置に気を付ける。
- (4) 農薬散布後は、防除器具、ホース、ノズルをよく洗浄する。
- (5) 発生予察情報に基づき、必要最小限の散布に努める。
- (6) 散布した作物、散布した日時や圃場、使用した農薬、希釈倍数などを必ず記帳する。



### 2. 農薬の飛散(ドリフト)による周辺農作物への影響防止

上記1の「基本的な農薬散布」のほか、必要に応じて次の対策を講じるようにする。

- (1) 飛散しにくい剤型（粒剤など）の農薬を使用する。
- (2) 飛散しにくい散布ノズルを使用するほか、散布圧力を上げすぎない。
- (3) 圃場の境界区域では、最新の注意を払い農薬を散布する。
- (4) 周辺農作物の収穫時期が近い場合や作付の位置関係などから農薬の飛散の影響が避けられないと思われる場合は、一時的にシートやネット等で被覆する。
- (5) 農薬散布の時期、周辺農作物の収穫時期などについて、近隣圃場の生産者間で情報交換を行うとともに、お互いに配慮しあう。
- (6) 水田転作作物等については、地域全体で同一作物の団地化等について検討する。
- (7) 周辺農産物にも登録がある農薬を選択する。
- (8) 周辺農産物に農薬を飛散させた場合は、飛散した圃場の栽培者に知らせるとともに指導機関等に相談する。



## 農薬散布時の注意点

### ① 農薬散布の際は保護具を着用しましょう

農薬用マスク  
保護めがね  
手袋  
防除衣



### ② 使い終わった農薬は適正に処理しましょう

1. 農薬は適正量散布することを心掛け、圃場内で使い切るようにしましょう。万が一、余った場合は地域の処理方法に準じて処理してください。
2. 散布器やボトルを洗浄する際は河川等水系には流さず、周辺への流亡にも注意しましょう。



### ③ 農薬使用后、身体に異常を感じたらすぐに病院で診察をうけましょう

診断の参考にしてもらうため使用した農薬のボトルまたはラベルを持っていきましょう



JA秋田おぼこ

# 農業技術情報

No. 4

平成24年6月発行



安心のネットワーク  
NOSAI仙北

発行/秋田おぼこ農業協同組合

監修/仙北地域振興局農業振興普及課

仙北農業共済組合

## 適切な水管理で有効茎確保!! ~生育調査・栄養診断に基づいた中干し&追肥を行いましょう~

### 水稻定点調査結果 6月11日現在

#### 調査結果

6月11日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈25.0cm(平年比100%)、茎数154本/m<sup>2</sup>(同99%)、葉数5.6葉(同-0.3葉)でした。

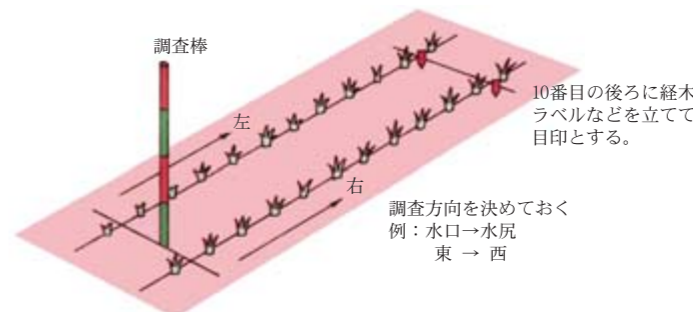
田植え盛期は平年より4日遅い5月25日でしたが、葉数から見た生育の遅れは2日程度であり、田植え後の天候が良好だったことから、平年並みの生育が確保されています。

あきたこまち定点調査結果(10地点平均)			
	6月11日		
	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)
本年	25.0	154	5.6
平年	25.1	155	5.9
前年	23.2	106	5.4
平年比(%±)	100%	99%	-0.3
前年比(%±)	108%	145%	+0.2

### 生育調査・栄養診断を行いましょう。

・おいしいお米を安定的に生産するために、生育調査、栄養診断に基づいた肥培管理を行いましょう。

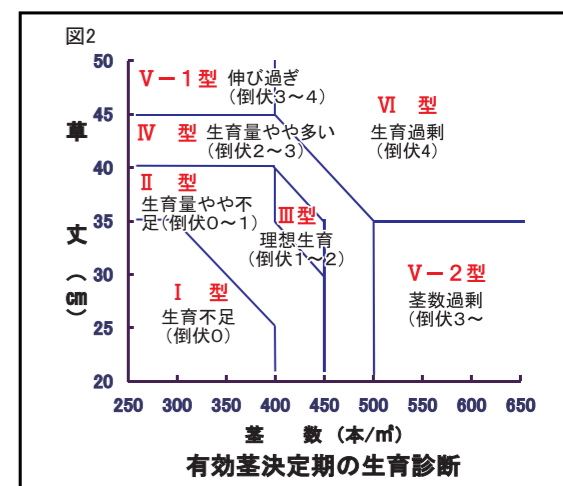
#### 1) 生育調査の方法



1. 調査地点は畦畔から3~4m中へ入った平均的な生育、植え付け本数のところに設定します。
2. 調査株は20株が基本ですが、自分で出来る範囲で設定します。
3. 有効茎決定期は、草丈と茎数の生育調査をします。
4. 有効茎決定期の生育診断では、下表、下図を参考とし、中干し開始の目安としましょう。

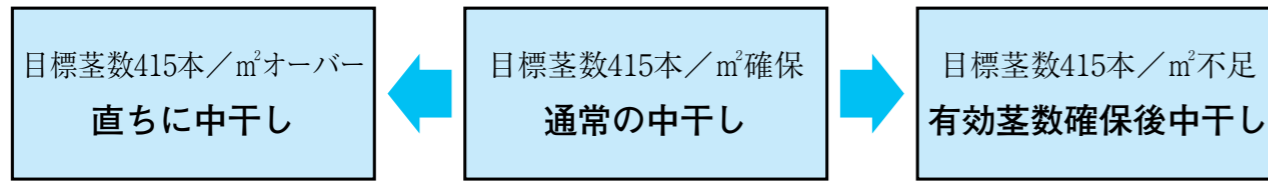
生育型	売れる米づくりの技術対策
I 型	生育促進するため、通常の浅水管理で茎数を確保する
II 型	有効茎数を確保してから、深水管理により弱小茎を抑制し、その後中干しを行う
III 型	6号分げつの発生を確認してから、弱小茎を抑制する深水管理を行い、その後中干しを行う
IV 型	生育量がやや多いことから通常の中干しを行う
V-1 型	草丈が長いことから直ちに中干しを行う
V-2 型	茎数が過剰であることから、直ちに中干しを行い、弱小茎を抑制する
VI 型	生育が過剰であることから、直ちに強めの中干しに入る

○中干しの開始時期については次ページもご覧ください。



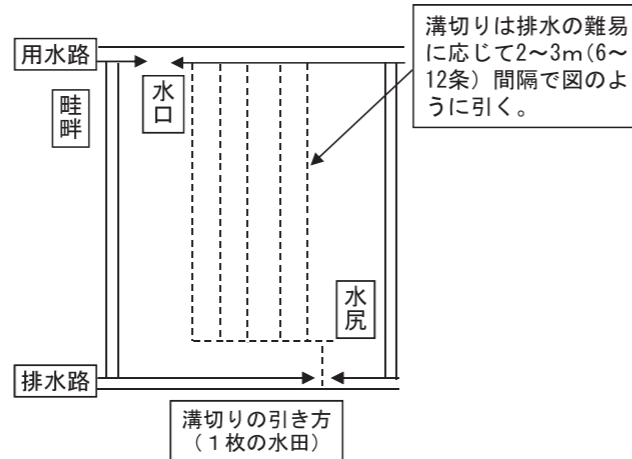
## 中干しの簡易診断

- ・イネの茎数や草丈をよく観察し、中干しを行いましょ。 (あきたこまちの場合)  
6月25日頃 (草丈38cm)  
9葉期 (有効茎決定期)



### 【中干しで無効分げつを抑制します】

- ・田面の均平が悪く落水しにくい場合や、排水不良田では中干しに先立って溝掘りを行います。
- ・中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的な条件に保ち根の伸長を促進させます。
- ・中干しの実施期間は7～10日程度とし、幼穂形成期前には終了します。
- ・中干しの程度は、田面に1～2cm程度の亀裂が入り足跡が付く程度とします。  
中干しを強くしすぎると亀裂が大きくなり、根が切れ、生育に影響を及ぼします (特に黒ボク土では注意が必要)。



### 【深水管理で無効分げつを抑制する場合】

- ・漏水の原因となる畦畔の崩壊や穴などがある場合は修復しましょう。
- ・深水管理は15cmの水深が保てる圃場で行います。
- ・主稈葉齢で8.5～9.5葉期を15cmに保ち、その後は慣行栽培と同様に中干しを行います。
- ・排水不良田では気象条件によって中干しによる分げつ発生抑制が不十分となる場合があります。このような場合は深水管理での分げつ抑制が有効です。
- ・天候不順などにより、目標茎数 (20本から23本/株) を確保できない場合は、深水によるマイナス効果が大きく茎数不足となるので、通常の水管理を実施します。

## 葉いもち予防対策

### 【余り苗の長期放置は危険!!】

補植用余り苗は、葉いもちの伝染源になりやすいので、補植終了後は、土中に埋没処理するなど、早期に処分しましょう。ほ場や畦畔に裏返しておくだけでは、不十分で大変危険です。

## フタオビコヤガ (イネアオムシ) 対策

発生が多く、食害が多発している場合は、茎葉散布剤 (トレボン粉剤DLまたはMR、ジョーカー粉剤DL) を散布します。



## 一発剤で残った雑草は中・後期剤で抑えましょう。

- ・中期剤には使用時に湛水で散布する剤と、落水して散布する剤があります。使用前にラベルをよく読んで、使用方法に沿って散布しましょう。

剤系	薬剤名	使用量 (10aあたり)	使用回数	使用時期 使用方法
ヒエ剤	クリンチャー 1キロ粒剤	1 kg	2回以内	移植後7日～ノビエ4葉期但し、収穫30日前まで湛水散布
		1.5kg		移植25日～ノビエ5葉期但し、収穫30日前まで湛水散布
	クリンチャーEW	100ml / 25～100% 湛水	2回以内	移植後20日～ノビエ6葉期但し、収穫30日前まで湛水散布又は落水散布 (展着剤加用)
	ヒエクリーン 1キロ粒剤	1 kg	1回	移植後15日～ノビエ4葉期但し、収穫45日前まで湛水散布
ヒエ・広葉混合剤	クリンチャーバスマE液剤	1000ml / 70～100% 湛水	2回以内	移植後15日～ノビエ5葉期但し、収穫50日前まで落水散布
	ワイドアタックSC	100ml / 100% 湛水	2回以内	移植後20日～ノビエ5葉期まで (イネ6葉期以降) 但し、収穫30日前まで落水散布
	フォローアップ 1キロ粒剤	1 kg	1回	移植後25日～ノビエ5葉期但し、収穫60日前まで湛水散布
	ハイカット 1キロ粒剤	1 kg	1回	移植後15日～ノビエ3.5葉期但し、収穫60日前まで湛水散布
	ヒエクリーンバサグラン	3 kg	1回	移植後15日～ノビエ4葉期但し、収穫60日前までごく浅く湛水して散布

## 稲作り肥料・追肥のポイント

### 【全層基肥栽培の場合の中間追肥】

- ・移植後30日になると基肥で速効性肥料を使用した圃場では、葉色が淡くムラになり、葉身が立ってくる、「肥切れ」が見られるようになります。
- ・穂肥まで持たない場合は、基肥量に応じてチッソ成分量で1.0～1.5kg/10aを追肥します。この時期は、土壌チッソの発現もありますので、追肥量には十分注意して下さい。

### 【側条施肥栽培のつなぎ肥】

- ・側条施肥で緩効性肥料や全層と組み合わせた場合は、原則としてつなぎ肥は不要ですが、天候や生育状況によっては必要となる場合もあります。
- ・ペースト肥料 (2段施肥を除く) や速効性肥料を使用した場合は、8～9葉期にチッソ成分で1.0～1.5kg/10aを追肥します。

### 稲づくり肥料の施用

肥料名	施肥量 (kg/10a)	施用時期	施用効果
P K 化成 40号	20～40kg	6月下旬～7月初旬	①倒伏抵抗性が高まる
けい酸加里			②根の活力向上
おばこの大地			③有効茎歩合の向上
粒状みつかね	40kg		④登熟歩合の向上

### 追肥肥料の施用

肥料名	施肥量 (kg/10a)	施用時期	備考
おばこロマンみのり	7～13kg	出穂前15日 ※1・2	硫安系 15-4-15 有機20%入り
おばこロマンめぐみ			塩安系 15-4-15 有機20%入り

- ※1 穂肥は減数分裂期 (出穂前15日頃) にN 2kg/10aを基本とし、葉色が濃い場合、幼穂形成期には追肥は行わない。幼穂形成期と減数分裂期の2回追肥を行う場合は2回の合計でN 3kg/10a以内とします。
- ※2 減数分裂期以降は、玄米中のタンパク質含量を高めて食味値を低下させるので避けること。